

青果物流通の営業が もっと楽しくなる方法

第3回 新しく出会う人と話せる
ために勉強する

ほん だ しのぶ
本田 茂

農業経営診断士 6次産業化プランナー



1. はじめに

前は、仕事が楽しくなるための方法として「出会う人を変えてみる」として、セミナーや交流会に顔を出すことを勧めました。

「時間外になぜそんなことをするのか？ ただでさえ時間外が多いのに」こんな声も聞こえてきそうです。でも、皆さんよく考えてみてください。1日の業務時間はだいたい9時間くらいでしょう(定時+2時間残業として)。睡眠、食事、通勤、お風呂などの時間を除けば、自由なプライベートの時間と仕事の時間比は圧倒的に仕事の時間が多いですね。

長いJA生活の中で、この仕事の時間を苦痛で過ごすのと楽しく

過ごすのでは、どちらが得な人生でしょうか？

出会う人を変えて、新しく出会う人と話せるようになる。そうすると新しい発想が生まれ、人脈ができて仕事楽しくなってくるのです。せっかくの会社人生を楽しみませんか？

そのファーストステップとして、新しく出会う人と、今までと違った視点で話をして、より交流を深めるために勉強するのです。

2. まずは回覧物や新聞記事をサッと目を通す

JAの職場にある、または回覧で回ってくる雑誌や新聞の中で、園芸担当者に読んでいただきたい主な業界紙を次表にまとめました。

読んだ方が よい業界紙	発行日サイクル	内 容
農業新聞	日刊	全国の農家の取組み、事例、政策、TPP 動向（反対記事のみ）
日経新聞	日刊	多くのビジネスマンが読んでいる新聞。 1面と企業総合で経済、各企業の動向をつかむ
日経 MJ	週3回 月・水・金	食関係の記事が多い。新商品の紹介やマーケティングのコラムも面白い。年に1回（6月）量販店の業績ランキングも必読
農経新聞	毎週月	市場流通の唯一の業界紙。意欲ある地方市場や仲卸の動向をチェック
JA 経営実務	月刊	この専門誌は必読です（笑） JA 職員が地域経済を担うための外部視点からの特集をチェック 連載物は外部視点の見解やノウハウものが多い
農林リサーチ	月刊	市場流通の有識者、事業者のレポート。もう一つの視点から市場流通を学ぶ
農業経営者	月刊	先進的な経営者の特集が多い TPP 賛成記事も
メルマガ	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・日本政策金庫農林水産事業部 ・日経 ・第6チャンネル通信 ・株式会社ファーム・アンド・ファーム・カンパニー ・農業経営者 などなど
ブログ	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・岡本信一さん「あなたも農業コンサルになれる」 ・やまけんの食い倒れ日記 などなど

筆者は在職時にはこれら専門誌をほぼ全部目を通していました。

しかし、読んでも読んでも次々に読むものがやってきます。さすがに情報が洪水のように押し寄せて疲れしました。こうしたときに工夫した読み方は、見出し読みです。新聞は見出しだけ読んで、結論だけを抑えていました。後は、気になる記事の文章まで読むようにしました。

あまり無理をしてもいけないのですが、『農業新聞』の1面と裏面、『日経』の1面と企業総合のみ、『日経MJ』の1面とコラム、この3点セットからでも挑戦してみてもいかがでしょうか？ 継続が大事なので、全部目を通す必要はないです。

また、最近はメルマガやブログ、SNSなどにも読むべきものが増えていきますね。

3. 新聞やブログから出会う人を変えられる！

実は、実際に会わなくても出会う人は変えられます。新聞や業界紙でコラムを書いている人の記事を読みましょう。また新聞1面のコラムでもいいと思います。ここ

では、実際に人から話を聞くように、書いている人をイメージして読んでみてください。「この人はどうしてこのような意見をもてるのだろうか?」「この主張はわかるけど、別の視点が抜けていないか?」などと記事を書いている人の意見や考えを意識するのです。そして、「自分だったら同じテーマでどんな意見を持てるか?」を、自分の胸に手をあてて考えてみるのです。

大切なことは、インプットした情報から自分なりに考えて自分の考えを持つことです。ここからが本当の勉強のはじまりなのです。

4. 実践で活かすには

さて、インプットした情報の中から自分の意見を持つようになったら、いろいろな方と意見交換をしてみましょう。職場の人、職場の上司、部会長、行政の方、市場担当者と、いつものような仕事の話だけではなくて、自分が読んで気になったテーマをぶつけてみるのです。「この記事どう思いますか?」「自分はこう思うけどどう思います?」と。

ここからが他流試合のはじまり

です。試合といっても勝つ必要はないのです。自分の見解をどう思うか？ 抜けている視点はないか？ 論理的な根拠があるか？ を考えてみるのです。

いろいろな方と話をすることで自分の考察に厚みができてくるので、筆者はまず話しやすい職場の上司をつかまえて意見交換をしていました。上席の方ほど視野が広く、たくさんのことを教えていただけなのです。

5. おわりに

いかがでしたか？ 勉強といっても学生の試験勉強のように、暗記をしたり、難しい問題を解いたりするわけではありません。勉強はインプットとアウトプットが大事なので、大切なことはあふれる情報の中から自分の意見をもつことです。その意見を職場や部長、

農業法人の経営者などの現場で意見交換することです。

出会う人を変えなくても「話す内容を変えてみる」という経験を増やしていくと、今度は新しく出会った自分とはステージが違う人でも話せる引き出しが増えてくるのです。

皆さん！ ぜひ仕事を楽しくしてください！



執筆者紹介



本田 茂…農業経営診断士。宮城県在住。農家や農業法人に対する経営支援をおこなうため平成24年10月独立。17年間 JA 全農で青果物流通の現場にいた。主な担当品目は、菌茸類、豆類、土物全般、筍、梅、きゅうりなど。平成22年経済産業省登録中小企業診断士となる。(株)コミュニケーション教育協会理事。農業業界、青果物流通業界において人材育成のために講演や研修講師などの活動もおこなう。

●園芸担当者向け研修講師承ります。

お問い合わせは JA 経営実務担当粟野まで awano@zenkyou.com;